

～ハツとしたとき出るエッセイ～



# 坊守のひとりごと



愛知県安城市和泉町中本郷41

2021年12月1日号

## 「叱られる覚悟の糠袋」

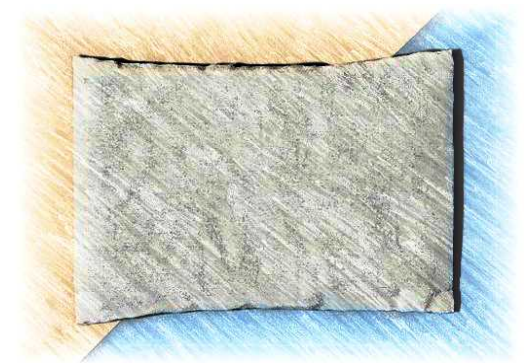
12月の「報恩講」をもって任期満了となる「第30代同朋婦人会」さんの活動は、コロナ禍に翻弄された2年間でした。緊急事態宣言と蔓延防止措置の間で、「せっかく一生懸命やろうと思って役を受けたのに例年通りの活動ができない」というもどかしさを抱えていました。そこでたどり着いたのが自主清掃活動。新築の本堂でも3年も経つと、雨風にさらされる浜縁の欄干などが黒ずんできます。ここを少しでも美しく保とうと、手作りの糠袋での拭き掃除が始まりました。コロナ禍で行事が行えなくても、会長さん副会長さんを中心にとても元気でまとまりの良い婦人会となっていました。

10月の「秋の法話会」は、同朋婦人会主催。東城百合子先生の「自然を師に学ぶ」をテーマに開催しています。本年は午後からのみで、内容もコンパクトになりました。しかし、毎年恒例の参加者へのお土産は絶対に手を抜きたくない——。その時、思い出しました。うちのお嫁さんが自然分娩を目標とする病院に入院中に「産後の後陣痛が辛くなると温めた糠袋をお腹や背中に当てて下さり、それが本当に気持ちよかった。」という話を。これは、糠袋で掃除をしているこの会にぴったりという提案に、皆さん喜んで賛同してくれました。

ところがここで問題が発生。糠の温め方です。一般的には、糠は電子レンジで温めます。しかし、自然療法の観点では、電子レンジは電磁波が身体に悪影響を及ぼすとされるので、「糠はフライパンで炒って使って下さい」となり、糠と袋を別々にしてプレゼントする必要があります。果たしてそれで、どれほどの方が実際に活用して下さるだろうか？と不安になりました。

もし東城先生が生きておられたら絶対に叱って下さると思いましたが、使ってもらえないよりとにかく使ってもらいたいと、電子レンジ活用を容認する決断をしました。つまり、あらかじめ糠をしっかりと炒った上で、それを布袋に入れてミシンで縫いあげた完成品糠袋を作りました。説明書には温め方について触れないようにしましたが、当日の会場での説明では「500Wの電子レンジで2分くらい温めてから、タオルに包んでお腹や腰に当てて下さい。気持ちいいですよ。」とお伝えしました。

講演の中でご講師の五来純さんは、「こんにやく湿布や生姜湯湿布でお腹や腰を温めると免疫力がアップします。自然の手当てをしていると、末期の癌でも痛みや苦しみを軽くします。」とお話をして下さいました。



法話会が終わったその日の夜、1件のLINEが来ました。

「今日お土産で頂いた<sup>みやげ</sup>糠袋<sup>ぬかぶくろ</sup>、お腹がポカポカしてとっても気持ちいいです。電子レンジで温めるだけだったので、私でもやれました。本当にありがとうございました。」

もう疲れが吹き飛ぶほど嬉しくて、すぐに会長さん副会長さんにもLINEをしました。

次の日も「すごく気持ちがいいから知り合いに送りたい」と追加で買いに来て下さる方や、「子どもにもやってあげたい」と求められる方々が続出して、余っていた<sup>ぬかぶくろ</sup>糠袋はあっという間にすべて無くなってしまいました。たくさんたくさんの喜びの声が届いたことでした。

一方で、「何回くらい使えますか?」とか「いつまで使えますか?」などの質問には何も答えられず、あまりにも安易に世に出してしまったことを反省してもいました。これから1年かけて<sup>ぬかぶくろ</sup>糠袋について実践し、積み重ねて勉強していこうと婦人会さんと話し合いました。

こんにやく<sup>しつぷ</sup>湿布や生姜湯<sup>しょうがゆ</sup>湿布、<sup>おんきゆう</sup>ビワ葉 温灸などの自然療法は、「いいのは分かっているけど面倒だからやれない」という方々がたくさんおられます。そういう方が「電子レンジだから<sup>ぬかぶくろ</sup>糠袋<sup>しつぷ</sup>湿布がやれて「お腹を温めることがこんなに気持ちいいとわかって嬉しかった」と言ってくれたのです。ここから「自然を師に学ぶ」本物のお手当に結びついてくれることを祈るばかりです。

それにしても<sup>どうぼう</sup>同朋婦人会の皆さんが心を込めて手作りした<sup>ぬかぶくろ</sup>糠袋が、こんなにも大きな影響を与えた事実、あらためてびっくりした今年の「秋の法話会」でした。

坊守 樋口頼子



五来純先生と同朋婦人会の皆さん 「秋の法話会2021」 10月29日